

校長の想い 8月

読書百編

暑い夏がやってきました。感染症拡大防止に気を付けながら、熱中症にも気を付けてほしいと思います。

さて、人間歳を重ねると昔のことをよく思い出すことがあります。

私がまだ27歳の頃、初めて担任をもつことが決まり、嬉しくて、クラス分けした後生徒の個人カードに貼ってある写真と名前を一致させようと何日も見ていたことがありました。生徒の招集日には、50人位の生徒の名前を全員憶えて対応していました。

その中のひとりにSさんという女子生徒がいました。とても良い生徒でしたが、数学が苦手で、定期テストが近づくと教室で毎回補習を行っていました。

その生徒の「数学の苦手っぷり」は、半端ではありませんでした。

今教えた問題を他の一問を挟んでから、もう一度やってみようと言ってもできませんでした。私も何とか、赤点にならない位の点数を取ってほしいと思い必死でした。

違う問題を一問やってしまうとさっきやった問題が解けなくなってしまう。ということは、試験問題を見せたとしてもできないのではないかと考えました。でも、見せるわけにはいけないので、これならできるかなと思う問題の数字を変えて繰り返し練習させました。

「読書百篇」難しい書物も繰り返し読めば、理解できるようになるように、何回も繰り返しできないことを練習しているとできるようになるものだと信じています。

Sさんも、もう50歳を過ぎている歳です。きっと元気に暮らしていることでしょう。